

# 家族で 子育て Q&A ⑤



**Q** 産休を終え復職しますが、小学2年の子供がいったんは納得していた学童保育に行きたくないと言っているので困っています。

**A** 小学校低学年では、まだ母性的な関わりが大切です。仕事に出る分、家庭では子供さんとの密な接触を心がけましょう。

## 子供の気持ちに共感

子供さんが学童に行き渋る理由は何でしょうか。これまで家にいたお母さんから離れたくない気持ちや、仲の良い友達と遊びたい、知らない集団に入るのは気後れするなどでしょう。子供の気持ちになつて、共感してあげると安心しますよ。

可能なら慣れるまで短時間でお迎えに行くようにします。行き渋る子供さんを人に預けるとき、後ろ髪を引かれるような思いをするでしょう。でも親がいなくなると案外、平気で友達と遊んでいたりますよ。

お母さんは、働く理由を自分のなかですっかり意味づけをしておくことが大切です。「お母さんも頑張るから、あなたも頑張つてね」というスタンスでいると、子供さんにも思いが伝わるのではないのでしょうか。

## 9歳まで母性的関わりを

その分、家庭では安心して過ごせるよう、子供さんの話にはよく耳を傾けてあげましょう。仕事の忙しさをそのまま家庭に持ち込んだり、「お母さんは仕事で疲れているのよ」などと言ったりしないようにします。それは大人の事情ですから。

家事も一人でやろうと気負わず、夫や子供に手伝ってもらえば、子供に有能感が芽生えます。「つ」がつくまでは、母性的な関わりが大切です。「九つ」は小学校3〜4年生ですね。小学校低学年では、肌を離さず可愛がっていると自立できなくなるのでは、という心配はいりません。本の読み語りをするなど、短い時間でも、親子の密度の濃い時間にするように努めましょう。「お母さんと一緒にいたい」という子供の気持ちをおしこみ、子供が喜んでくれることに喜びを感じられるようなお母さんは幸せですね。

家事も一人でやろうと気負わず、夫や子供に手伝ってもらえば、子供に有能感が芽生えます。「つ」がつくまでは、母性的な関わりが大切です。「九つ」は小学校3〜4年生ですね。小学校低学年では、肌を離さず可愛がっていると自立できなくなるのでは、という心配はいりません。本の読み語りをするなど、短い時間でも、親子の密度の濃い時間にするように努めましょう。「お母さんと一緒にいたい」という子供の気持ちをおしこみ、子供が喜んでくれることに喜びを感じられるようなお母さんは幸せですね。